

平成27年度 学校評価報告書 三郷市立彦郷小学校 校長 中西 健二							
評価項目	評価項目 No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え		
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。	3.73	3.80	校長の指導のもと、「アクティブ彦郷」を合言葉とし「やさしいっばい、楽しんごっばい、元気いっばい」そして「笑顔いっばい」の学校を目指し、家庭・地域に信頼される学校づくりに取り組み、全教育活動を通して、学校教育目標である「やさしい子、学ぶ子、健康な子」の育成に努めている。取り組みにあたっては、「報告・連絡・相談・見届け」を基本に据え、組織として活動をしている。	
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教員・分掌等の経営にあたっている。	3.64	3.70	学年主任のリーダーシップのもと、児童の実態に応じた学年経営にあたっている。今年度も経験年数の浅い学年主任が多かったため、横のつながりを重視し、同時に教職員一人一人が校務分掌等の役割を自覚し、PDCAサイクルのもと、教育計画や行事計画を実践している。今後はさらに教職員一人一人の自覚を深め、反省を生かし、参画を活性化している。	
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.82	3.80	「読書でほぐくむ 親子の絆 感じる心」のテーマのもと、「読書で輝く彦郷小学校」を合言葉とし、読書活動の充実による学ぶ意欲、家庭の教育力向上、家庭との連携を学校教育の基盤に据えている。	
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り組織的に取り組んでいる。	3.68	3.80	「読書でほぐくむ 親子の絆 感じる心」をテーマに、読書推進部を中心に取り組んでいる。図書館司書や図書ボランティアとの連携を密にし、全教育活動を通して読書活動を推進している。その結果、本に親しむ環境がより一層整備され、児童の読書量は昨年比1.3倍増である。	
	資質向上	5	学校は、教職員の服務規律を確保するための取組をしている。	3.59	3.70	担当者を軸として、創意工夫を生かした月例の「倫理確立委員会」を実施した。また、新聞報道「東成ニュース」等を活用した日常の指導を行い、絶えず教育に携わる者の使命感の崇高さ、責任の大きさを訴え、常に服務の厳正に努めている。	
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.68	3.70	「彦郷型授業」の積極的推進に取り組んでいる。一人一授業(算数・道徳・体育)を公開するなか、互いに授業を見合うことでよさを吸収し、指導力を向上させている。学校全体で若手教員の意欲を高め、共に学ぶ姿勢が築き上げられてきている。年次研修にも各自がしっかりと取り組み、成果を上げている。	
授業等の状況	学力向上	7	教職員は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づき授業改善に取り組んでいる。	3.14	3.90	「育調査の結果をもとに、児童の実態を把握し、全教科で課題解決型「彦郷型授業」を推進し、学力の育成を図っている。また、学年会を研修の場と位置付け、教材研究・授業の打ち合わせを行っている。同時に算数・道徳・体育の授業研究では、指導案検討段階から外部指導者を招聘し取り組んだ。全員研究授業を実施、互いに授業を見あうことでよさを学び合い、授業改善に努めている。	
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.36	3.80	算数科を中心に、3年生以上で計画的に少人数指導の授業に取り組んでいるが、外国籍児童を含め、補習学習が必要な児童が多い。日常の授業充実とともに、休業中に算数教室を実施し基礎基本の定着に努めている。月曜日の朝の「言葉のカケムシ」、木曜日の朝の「算数パワーアップタイム」等も取り組んでいる。家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化を推進することで、一層の学力の向上を図っていく。	
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.64	3.90	本校の課題分析から「心はピン」の合言葉を策定し、全教職員共通理解のもと指導にあたっている。授業の終始のあいさつや返事、手の挙げ方、発表の仕方等の学習規律が児童一人一人に身につけている。いつでもゴミのないきれいな教室、話の聞き方が課題である。	
		10	教職員は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。	3.45	3.60	職員の共通理解のもと学習・生活ルールを粘り強く指導した結果、おおむね落ち着いた学習に取り組めるようになった。個別対応を必要とする児童も多く、日本語指導教員や少人数指導教員や代替教員による個別に合わせた指導を行っている。	
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。	4.00	4.00	読書推進部を中心に、図書館司書や図書ボランティアとの連携を図り、「本が読みたいくなる」環境づくり、読書の質と量の向上、読書の習慣化に取り組む成果をあげている。本年度も多学年でプリオバトルにも取り組んだ。また、毎月第1・第3土曜日を家族読書の日とし、家庭との連携も図っている。	
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。	3.73	3.90	今年度の一人あたりの図書貸出冊数は、12月現在で73.7冊である。本好きの児童が増え、児童は主体的に読書活動に取り組んでいる。教職員の読書に関する意識が高まるにつれ、子ども達の読書量も増え、読書あそびを達成する児童が昨年より増加した。	
	健康・体力	13	教職員は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.27	4.00	全クラスで実食指導による食育指導、企業による出前授業による食育指導を実施した結果、食に関する意識が高まった。給食の残菜を減らし、「ももぐ週間」の取り組みを行った。家庭と連携し、つくる人の感謝の気持ちを忘れず、給食を残さず食べる指導や朝食への呼びかけを継続していく。	
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。	3.86	4.00	朝マラソンや朝の運動、めあて学習を取り入れた体育の授業を基本とし、体力向上に取り組んでいる。新体力テストでは全学年全クラスで全項目県平均を上回ったが、昨年度の同学年と比較すると数値は下がっている。特にボール投げが課題である。授業や元氣タイム等で「投運動」を重点化し、投力を高め、季節毎の元氣タイム(鉄棒・マラソン・なわとび)、業間や昼休みの外遊びにも積極的に取り組む児童が多い。	
	人間力を高める道徳教育	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育を積極的に推進している。	3.27	3.80	全教育活動を通しての道徳教育を実施している。また、全学級で道徳の学習を少なくとも一回は保護者や地域に公開し、児童の実態を知っていただき連携を深めている。懇談会においても児童の道徳心等について保護者が共通に話し合う場を設けている。さらに必要に応じて保護者にも参加していただく授業を行っている。	
		16	教職員は、道徳授業の工夫改善をしている。	3.14	3.80	全学級が年間指導計画の完全実施に努めている。道徳推進教員のリーダーシップの下、資料分析や資料作成、授業の流し方の研修等を行っている。また、夏季休業日には外部指導者を招聘し、全教職員で教材研究を行った。さらに、「匠の授業」を通して全体指導をいただいた。若手教員は市で行う道徳場で研修を重ねる研究授業を積極的に取り入れ、授業改善を図っている。	
	指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	教職員は、自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.18	3.70	教職員が子ども達の教育環境の基盤であることを強く意識し、率先垂範できる教職員の育成に努めている。あいさつ、無言清掃、廊下歩行など率先で行っている教師が多い。倫理確立委員会を中心に、「教職員事故」の実現に、情報の提供と共有化を図っている。
			18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。	3.55	3.70	学校、保護者、スクールガードによる登校指導を含めた「あいさつ運動」に取り組んでいる。校内ではできるようにしてきたが、自分から進んであいさつをすることや、校外でのあいさつが課題である。様々な場での担任や生徒指導主任の話にも取り上げた。今後も常に声かけと見取りを行い、あてている児童を誉め、指導を継続していく。
			19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.23	3.70	毎年の課題である。授業の中でできてきているが、日常的な会話では乱暴な言葉遣いも目立つ。また、場に応じた言葉遣いは、職員室への入退出や教職員との会話から振り返り指導している。今後も全職員が範を示し、共通理解のもと、取り組みを強化していく。
		生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.50	3.70	管理職の指導のもと、「報告・連絡・相談・指導・見届け」を行い、問題の早期発見・早期解決に努めるとともに、生徒指導推進委員会等を活用し、組織的に対応を行っている。また、「不登校0」を目指し、欠席した児童には、家庭への電話連絡、家庭訪問等を行っている。
			21	学校は、保護者(必要に応じて関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.68	3.80	保護者と情報共有することで個別の支援を行っている。「ことばの教室」「野のさど」「第2教育相談室」「みずぬめ」「特別支援学校」「児童相談所」等、関係機関との連携を図り、個別の課題に応じた対応を行っている。
			22	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合う指導をしている。	3.45	3.70	道徳授業や体験活動による豊かな心の育成により「いじめのない、許さない学校づくり」に取り組んでいる。また、互いに認め合い支え合う学級づくりを学校経営の基盤に位置付るとともに、行事への全力の取り組みと集団の達成による豊かな心の育成に取り組んでいる。いじめの早期発見・早期対応のため、日記やアンケートを実施し、個別相談を行っている。いじめが確認された場合には、生徒指導主任を中心に組織的に対応している。さらに全児童はいじめ撲滅宣言をしている。
安心・安全		23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.55	3.70	校長の指導のもと、生徒指導推進委員会や学校安全部を中心に「事故0」を目指している。「報告・連絡・相談・見届け」の体制を確立し、関係諸機関との連携も密にして組織的な対応を行っている。マニュアルが形骸化しないよう、見直し・改善・研修を行っている。	
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。	3.64	3.70	月例の安全点検や日常点検を行い、被検箇所・危険箇所の把握と迅速な修理・保全に常に努めている。また、学校応援団の環境ボランティアと連携し、安心・安全な教育環境づくりに取り組んでいる。	
環境整備		25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。	3.68	3.80	きれいな学校づくりのために、全校で無言清掃に取り組んでいる。具体的な清掃手順の指導や、清掃時の現場指導を積極的に行っている。「心を育てる」環境づくりを目指し、旬の掲示教育にも取り組んでいる。フックストリートやホール、図書館等は読書推進部を中心に、図書館司書や図書ボランティアの協力のもと、季節感あふれる掲示をしている。	
		26	学校は、学習環境を整えるため、施設・設備の充実を図っている。	3.41	3.80	学校配当予算を重点的に配分し、計画的に教材・備品の整備に努めている。しかし、古い教材・備品が多く、授業を進める上で数が不足している現状がある。より一層教員の申請をもとに必要な備品を洗い出し、施設・設備の充実を図っていく。	
家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。	3.86	4.00	学校だよりや学年だより、メール配信等により、積極的に情報提供に努めている。ホームページの更新は課業日毎日行い、本校の教育活動の様子を具体的に伝えることができた。学校だよりは学校評議員をはじめ町内会等にも配布し、幅広く情報提供に努めている。		
	28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。	3.64	3.80	保護者の方々による毎朝の登校指導や学区内パトロール、スクールガードさんによる登下校の安全指導等により、児童の安全を守り、不審者を寄せ付けない体制で取り組んでいる。また、地域の安全マップを全家庭に配布し、危険箇所の周知を図っている。さらに、こども110番の家を増やし、関わりを深める活動を行っている。		
	29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。	3.64	3.80	PTAの役員会、運営委員会に校長・教頭が参加し、学校とPTAが一体となって活動できるようにしている。人権教育学級、広報紙編集・ラジオ体操実施、バザー協力等を積極的にしている。地域活動としては、地域の夏祭りへのバトン・プラスバンドクラブの参加、育成会パトロール、花いっぱい運動等に取り組んでいる。		